

白洲正子著「風姿抄」世界文化社 1994年11月1日刊を読む

### 1. 六十の手習い

六十の手習いとは、六十歳に達して、新しいものをはじめることではない。若い時から手がけてきたことを老年になって、最初からやり直すことをいうのだ。

P.60

### 2. 古典

古典がうつくしいのは、つまらないものはふるいにかけて、余計な物は何一つ残っていないからである。

能の型というものも、単に古いというばかりでなくそういう意味で一つの古典であるといえよう。そういえば能面の表情というものも、確かに古典と言えるに違いない。

P.80

### [コメント]

ここまでつきつめられるとその通りと肯首する以外にない。

- 2009年12月30日 林明夫記 -